

## 20 世紀ロシア文学・文化論の再構築に関する日韓共同研究

埼玉大学教養学部教授 野中進

本プロジェクトは、比較文化・世界文学の枠組において「東アジアの視点」を活かしつつ、20 世紀ロシア文学および文化の理論的・歴史的再検討を日韓共同の研究チームによって行うことを研究目的としたものである。日韓の研究交流を軸としつつも、極東ロシア、中国、台湾などの東アジアのロシア文学・文化研究者たちのネットワークを形成することが中長期的な研究目標であり、本プロジェクトを実績にして、そのための外部資金の獲得につなげることを目指した。

具体的には、2012 年 5 月 26 日に国際研究セミナー“The Evolution of Russian Literature of the Twentieth Century: Body, Voice and Periphery”を組織・開催した（於上智大学）。極東ロシアの中堅・若手研究者を招き、国内の若手研究者も抜擢するなど、研究ネットワーク作りに努めた。この研究界のプログラムは以下の HP を参照：<http://nonakasusumu.jimdo.com/>もよおし/

韓国との交流について言えば、ヨン・ユンスン准教授（大邱大学）との共著論文の作成を行った（「韓国と日本におけるアンドレイ・プラトノフの受容の問題」）。その成果は 2013 年中に発表の予定である。また、キム・スフワン准教授（ソウル外国語大学）とは研究上の連絡を取り合い、2013 年 8 月に開催される第五回東アジア・スラヴィスト会議へのパネル共同申請を行い、採択済みである。

本プロジェクトに関連して日本学術振興会外国人研究者招へい（長期）にボリス・ラーニン教授（ロシア教育アカデミー）の埼玉大学への招へいを申請し、平成 25 年度分に採択された。ラーニン教授はロシア文学教育に関して世界的な研究者であり、本プロジェクトの趣旨への多大な貢献が期待される。

同じく、日本学術振興会の二国間交流（日本－韓国）、および外国人研究者招へい（短期・ダリボル・クリュチコヴィチ准教授（セルビア大学））に関して申請を行い、学振で審査中である（2013 年 5 月 26 日現在）。

また、2012 年 8 月 24－26 日にロシアのカシーモフ市で開催された国際学術会議（「マルギナリア 2012－テキストと文化の余白」）に参加し、学術報告を行った（「ヴァシーリー・ローザノフの創作の発展における読者の手紙の意義」）。

これ以外の刊行物成果については様式 1 を参照のこと。

全体として、韓国のロシア文化研究者との共同研究の推進を軸に、東アジアにおけるロシア文化研究のネットワーク拠点づくりという目標に向けて、おおむね順調な成果を挙げたと考えられる。